

読むこと（説明文）の指導（4年）



初等教育研究所 福本 菊江

学習指導要領の「説明的な文章の解釈に関する指導事項」として

- 低学年 ● 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
(順序・大体)
- 中学年 ● 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて読むこと。指示語・接続語・文末表現 (関係づける)
- 高学年 ● 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。
(自分の考えの形成)

などが示されている。

説明的文章の学習では、「何がどのように書かれているか」を讀んでいくことである。そこで、基礎的技能・基本的能力をおさえ、その力を説明文の讀みの活動に生かすことができるようにすることが重要である。その基礎的技能・基本的能力とは、①用語を知ること、②読み取るための方法を習得すること、「形式段落に分ける」「段落の要点をまとめる」「意味段落に分ける」「要約する」「文章構成図にまとめる」「要旨をまとめる」③その方法を活用して、積極的に子どもが文章に立ち向かう読みができるようにすることである。

説明文の讀みの力として重要なものに「段落の要点をまとめる」がある。たいていは、「この段落で大事な言葉や文はどれですか」と発問し、中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりするなどして、内容を整理する学習が行われている。

では、だれもが理解しやすい「要点をまとめる方法」とは、どのようにすればよいのだろうか。要点指導の方法は、次の手順ですとよい。

◆要点指導の手順

- 1、形式段落はいくつの文で構成されているか。
- 2、中心となる文を見つける。その時、次のような視点でとらえさせる。

- ・ 文の役割を考える。
- ・ 結論が述べられている文を見つける。
- ・ 形式段落内の主語と述語からを見つける。

3、短い文にまとめる。

抜き出した一文を短くまとめて「要点」とする。さらに、効果的な表現方法として、次の二点をとらえさせたい。

- ・主語、述語、キーワードを見つけさせて文にする。
- ・文末を体言止めにする。(意味段落を見つける時に役立つ)。

◆説明文の指導で大事な点をまとめると、次のようになる。

(1) 低学年 ・ 問いと答えの関係 ・ 言語事項の指導 ・ 文末表現

問い	<p>文末表現 ・「～でしょう」 ・「～でしょうか」</p> <p>○形式段落 用語 意味 数を数える</p> <p>○文意識 段落が何文でできているか。 中学年につながる。</p> <p>○主語意識 ～は ～が (言語事項)</p> <p style="text-align: center;">この段落はこのことについて書いてある。</p> <p>①形式段落は一字下がるよ。</p> <p>②形式段落は何文でできているかな？</p> <p>③主語はどれかな？</p> <p>④一番大事な一文はどれ？</p> <p style="text-align: center;"><u>二年生以降は主語が隠されているのを読むことが大事</u></p>
答え	<p>文末表現 ・「～です」「～である」「～なのである」「～なのです」</p> <p>・「～というわけである」「～というわけですよ」</p> <p>・「～だからです」・「だから～ます」</p>

(2) 中学年 問いと答え 答えが後の方に出ている。(違い)

問い	事例	調査	観察	実験	<p>○何が書かれているか。 何が説明されているか。 「実験」「観察」「調査」 「具体例」「事例」等</p> <p>○何のために(目的) 目的を明確にさせて、説明されている内容の目的をとらえる。</p> <p>○いくつ説明されているか。 書かれているものがいくつあるかをとらえる。書かれているものと目的を読むことと関連させて読んでいくとよい。</p> <p>○分かったことは何か？ 「書かれているもの」から、どんなことが分かったのかをとらえる。</p> <p>○どうなった(答えとの関係は) 「目的」と「分かったこと」から、答えの文に必要な言葉を見つけて、そのつながりをとらえる。</p>
○要点	○意味段落	○文章構成	○要約	い か 読 む 方 法 か	
答え					

◆事例研究 花を見つける手がかり 吉原 順平 文(教育出版4年下)

形式段落	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮																
文の数	2	4	1	3	3	2	4	3	2	5	4	6	3	6	2																
意味段落	第一段落	第二段落	第三段落	第四段落	第五段落	第六段落	第七段落																								
話題提示	もんしろちようは、何を手がかりにして、花を見つけるのでしょうか。		日高敏隆先生と東京農工大学の人たちは、この疑問をとくために、大がかりな実験をしました。		実験には、たくさんのもんしろちようが必要です。		実験は、まず、花だんの花……。		もんしろちようは、いつせいに、花だんに向かって……。		もんしろちようは、色で花を見つけているのでしょうか。		色か、においか、—— そのところをたしかめるには、……。		そこで、今度は、においのしないプラスチックの造花……。		もんしろちようは、においではなく、花の色か形にひかれています……。		もんしろちようは、色紙を花だと思ってくれるでしょうか。(問)		もんしろちようは、色紙を花だと思っっている。		いちばん集まったのがむらさき、一番めが黄色、……。		このような実験から、もんしろちようは、色を手がかりにして花を見つけることができました。そして、色も見分けることができるよう、むらさきや黄色は見つけやすく、赤は見えないらしいのです。		考え方の筋道を立てて、実験と観察を重ねていけば、その生活の仕組みをさぐっていくことができるのです。				
筆者の考え	話題	大がかりな実験	たくさんのもんしろちよう	花だんの四色の花で実験	花だんに向かって飛んでは、花の色で見つける	色かにおいかを確かめる実験をしなければならぬ	花の色か形にひかれる	プラスチックの四色の造花	色紙を花だと思っ	色も見分けるが、赤は見えないらしい	色を手がかりに花を見つけ、色を見けることができる	筆者の考え	結論	結果	結論	結果	結論	結果	結論	結果	結論	結果	結論	結果	結論	結果	結論	結果	結論	結果	結論
短くまとめた文	中心となる文																														

音読のワンポイントアドバイス

一学期のうちに読み癖を直すことが大事です。今一度一人一人の音読を聞いて、読み癖を直してあげたいです。

①語尾強調をしない

語尾をのぼしたり、語尾をのぼしてうねらせたりする読みをしている子はいませんか。表現が平板になり、語尾が強調されるので語尾ばかりが耳に残り、言いたいことが伝わってきません。

海
私^{わたし}は 海^{うみ}が好き
青い^{あお}い^おおい
海^{うみ}が^す好き
だ^だぶ^ぶん^んだ^だぶ^ぶんと
波^{なみ}が^す好き
な^なあ^あん^んに^にも^もな^ない
海^{うみ}が^す好き
う^うち^ち上^上げ^げら^られた
貝^{かい}が^す好き
し^しつ^つと^とり^りと^とした
砂^{すな}が^す好き
遠^{とほ}い^いと^とお^おい
つ^つな^なが^がつ^つて^てい^いる
外^{ぐわい}国^{こく}に
海^{うみ}が^す好き

唐島 敏子

音読の森
教育同人社③
刊

「継続は力なり」

指導計画をきちんと立てて、
螺旋的・継続的に指導を繰り返すことで、
着実に力をつけることができます。

